
静寂

聖魔光闇

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

静寂

【Nコード】

N1602R

【作者名】

聖魔光闇

【あらすじ】

よくもまあ、こんなたわいもない話ばかり思い付くなあ……つと。

今回は寂しくなった俺の話

(前書き)

うるさいのも嫌だけど……

『静かだ。本当に静かだ。家族が一人抜けるだけで、こんなに静かになるものだろうか……』

姉は新しい彼氏と同棲するらしく、昨日荷物をまとめて出ていった。なんだかウキウキした姉を見送った時には、『これでやっと開放される』と思ったのだが。

『ハア……。静かだ。勉強……。でもするか』

教科書と参考書とノートを机の上に並べ、ページを開くと問題を解きながら書いていく。スラスラと問題を解けるのだが、なんだか物足りない。

『いつもならここで、「アンタ何してんの？」ってノックもせずに入ってきたアネキが邪魔してくるんだけど……。ハア……。静かだなあ』

頬杖を突いて、勉強などそっちのけでボくっとしていた。

コンコン。とドアをノックする音が聞こえる。

『誰？』

と思いつつながら、

「誰え〜。入ってえ」

と返事する。

入ってきたのは父だった。

「どうした。ボクっとして。姉ちゃんか？」

と聞いてくる。

「うん。まあ……」

と返事をする。

「まあ、そんなにクヨクヨするなよ。死んだ訳じゃないんだから」

と言って出ていった。

「死んだ訳じゃ……か……」

と思っていると……

『うー!! 臭っ!! 臭え!! 父さん、マトモな事言って、屁こいて出て行きやがったな!! く、臭えええ!!』

姉がいなくなっても、俺の平穩はない……らしい。

(後書き)

！ アイツ最低だ！！ 絶対最低だ！！ 人がしんみりしている時によ

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n1602r/>

静寂

2011年10月8日01時19分発行